

神明石切り場跡

教育委員会では、神明石切り場の発掘調査を5月14日から開始しました。この調査は昨年度から実施しており今年で2年目になります。それでは、これまでの調査で判った事や現在の状況、さらにこれからの課題などについてお話します。

どうして発見されたのか

平成17年度の史跡整備事業で、福山城復元のための石垣石を採掘するため、神明にある町有地で掘削工事を開始したところ石垣が発見されました。工事は直ちに中止され、発見された石垣とその周辺を調査したところ、石垣のそばから幕末の信楽焼きの土瓶が出土し、その沢の上流には石垣石を採掘したと思われる大きな窪みがいくつもありません。このことから、築城時に石垣石を採掘した跡ではないかということになり、文化庁の指導のもとに、国の補助を得て、昨年度から調査を開始しました。

なぜ築城時だと判るのか

もちろん築城時だけ採掘したものではありません。それ以前にも掘削していたことが幕末の探検家松浦武四郎が嘉永3年に書き上げた『蝦夷日誌』に記されています。その「松前福山」の項のうち「神明町」には「石切場」があつて、「石質は甚だ柔らかいがこの地（松前）の甍石や敷石の多くはここより出す」とあります。次に、築城時に採掘していたことについては「松前町史」などに「神明沢より大石垣石を切り出し」と記されています。当然、最近時まで同地で切り出し、鉄道工事や史跡の復元などに使用されてきましたが、最近時の切り出し場所は判っているのです。それ以外の切り出し跡が明治以前の切り出し場ということになり、その最大の切り出し時期が築城時ということになります。さらに、神明以外の場所で大規模な切り出し跡が発見されていないことから、この神明の沢が築城時の石切り場跡と考えられるのです。

どんな調査をしているのか

まず、切り出し跡を確認するため笹などを伐採します。幼木についてはこれを保護するために幹を30cm残して伐木し、大きな樹木については絡んだ枝や横に張った枝を落とします。このように、地形が良く判るようになっています。全体の測量を行ないます。測量は基準点を設け、光波測距儀（トランシット）で、切り出し跡の輪郭や地表の凹凸を測点してゆきます。これをコンピュータに取り込んで座標計算をし、地形図を作成します。この地形図を基にして切り出し場の規模・構造を確認します。また、各切り出し場について、どのように切り出したのか、いつごろの時代に切り出したのか、その痕跡を見つけるための発掘調査を行います。

なにが判ったのか

これまでの調査で、切り出し跡が15カ所以上発見され、まだ増える可能性があります。切り出し跡の多くは直径が15から20mで、深さが3〜5mの窪地になっています。



窪地には、大木が生えているものと幼木しか生えていないものがある、いつ頃までそこで採掘していたのかの判断材料になります。また、今後の発掘調査で出土遺物などがあればさらに詳しい年代が判明するでしょう。

これからどうするの

調査の成果をまとめて、福山城築城時のものとそれ以外のものとの線引きを行ないます。福山城築城時のものについては、文化庁の指導により、福山城に直接関わる重要な石切り場遺構として、保存・活用を検討します。

現地見学会の開催について

教育委員会では、次の日程で神明石切り場跡の現地説明会を開催します。なお、現地は非常に急な斜面で足場が悪いうえ、それを標高差100m以上登らなくてはなりませんので、小学生以下の幼児や、体力に自信の無い方はご遠慮くださるようお願いいたします。

- ・日時 7月14日（土） 午前10時〜（雨天決行）
- ・集合場所 町民プール前駐車場
- ・参加料 保険料として50円

現地は落石・転落の危険がともなうため、参加者の方には全員、団体行事保険に加入していただきます。なお、参加料は開催当日の支払いとなります。

- ・申込締切 7月12日（木）
- ・申し込み・問い合わせ先 教育委員会事務局

文化教育グループ
（0142・3060）